

慈雲

22号

2012/2

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺
慈雲会
 〒604-8214
 京都市中京区新町通蛸薬師下る
 百足屋町375番地
 TEL/FAX (075)221-4616
 zuirenji@nifty.com
<http://www.zuirenji.net/>
 SinsyuuOotaniha
 JiunzanZuirenji
 Jiunkai



【解説】

人の一生でよき師に出会うほど大切な事はないでしょう。しかもそれは計らいを超えて偶然に賜るものたまわです。ひとたびそのような師や友と出会えば、それはその時だけの幸せに終わらずその人の生涯を貫くほどの影響を与えます。そのことを父は「一生の幸さいわいである」と念をおしてくれるのです。

住職

・この文章は前任職が療養所にて書いたものです。とても大きな言葉なので表紙としました。

一期一会とは種類世
 無常の世にこそ師に出会ふ
 可成りあり人々一生に一回も
 思ひたてず太事な人の人々一
 生の幸せに終わらずその人の生涯を貫くほどの影響を与えます。そのことを父は「一生の幸である」と念をおしてくれるのです。

浅井春洋

【読み方】

一期一会とは予期せぬ時に良き師に出会う事であり、人の一生に一回も廻つてくれればその人は一生の幸である。

浅井春洋

【表紙のことばについて】

表紙の言葉は『慈雲』創刊号（平成十七年九月）に掲載した文です。前住職が晩年にお世話になった療養施設で書いてくれたものです。その年の暮れ（十二月三十日）に亡くなりましたから、その三カ月ほど前のことです。当時は少し認知症の症状も出ておりましたが、主治医の勧めのままに筆を取って書いたものです。坊守が見舞いに行った時にそれを見せてもらいとても驚いて、寺に帰ってさっそく私に見せてくれました。字は弱々しかったのですが、内容のすばらしさに感動したことを覚えています。

後日また見舞いに行き、お寺の新聞を作るのでその題字を書いて欲しいと頼んで書いてくれたのが今の「慈雲」の字です。

この四月二十一日に親鸞聖人の御遠忌と合わせて七回忌を勤めます。もう一度この言葉に出会わせてもらった気がします。これが仏さまの回向ということでありましょう。そういう意味では亡き人はなくなつてはいません。こういう形でまたお念仏にあわせてもらいました。

【御遠忌は五十年に一度】

宗祖親鸞聖人と中興の祖といわれる蓮如上人のお二方は五十年毎に法要を勤めます。昨年は、本山東本願寺において、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌が勤まり、瑞蓮寺からも三十名程で参拝しました。実際には直前に東日本大震災が起きたので「被災者支援の集い」という形でしたが、一同御遠忌に出会えたという感動を胸にすることができました。

五十年に一度とはどういう意味があるのでしょうか。巡り会わせで一生に一度の人もあれば二十代と七十代で二回御遠忌に遇える人もいます。私は七百回忌の年昭和三十六年に生れ、今回七百五十回御遠忌の時に五十歳、八百回忌は百歳ですから少し難しいでしょう。ですから私にとっては生涯で一度きりの御遠忌ということになります。

だからといって、ただ派手にすれば良いとは思っておりません。本当にお念仏があふれるような法要にしたいと思いません。

お寺というのはどういう場所でしょうか。ご門徒と寺族（住職一家）、少なくともそれらの人たちが親鸞聖人の教えを中

心として、お経をあげ、教えを聞き、ともに語り合う、そういう場所がお寺でしょう。

二十年ほど前になりますが、あるキリスト教の神父さんと話す機会がありました。「どんなに立派な教会でも教会という建物が先にあつてそこにキリスト教の教えがあるのではない。教えを説く人とそれを聞く人がいてそこに喜びがあれば、それがたとえ青空の下でもそこにすでに教会が生まれている」という意味のお話をされました。

来る四月二十一日、私たちは瑞蓮寺において宗祖親鸞聖人の七百五十回忌を迎えようとしています。

親鸞聖人を讃えることで、いまの私たちと同じように宗祖親鸞聖人の御遠忌をわが喜びとされたであろうご先祖をふりかえり、この五十年の自分の歩いてきた道をふりかえり、世の中の移り変わりをふりかえり、これから先の五十年に思いを致す、それが御遠忌を五十年ごとに勤める意義ではないでしょうか。

これまでお寺に足を運んだことのない方も、一大事（仏法）に遇う機会としてどうぞお参りください。

【六角堂について】

「六角堂」は京都の中心部に位置するお寺の通称で、正式には

紫雲山しうんざん 頂法寺ちやうほうじ

と云い、天台宗のお寺です。

皆さんよくご存じのように、本堂が平面六角形であることから、この名で呼ばれています。

聖徳太子が四天王寺を建立するための用材を求めてこの地を訪れた際、太子は池で沐浴をするため、傍らの木に衣服とともに持仏の如意輪観音像を収めた箱を掛けておいたところ、如意輪観音像は重くなり動かなくなりました。

夢告によりその如意輪観音がこの地にとどまり衆生を済度することを希望されたので、その如意輪観音像をこの地に安置し、近くにあった杉の巨木を伐採して六角形の堂を建立したのがこの寺の始まりとされています。

また、華道の家元・池坊の発祥の地としても知られています。

鎌倉時代初期の建仁元年（1201年）、叡山の堂僧であった二十九歳の親鸞聖人（当時は「範宴（はんねん）」は、修行に行き詰まり、六角堂に百日間参籠することを決意されます。

参籠九十五日目の暁に救世観音の夢告を受けられた親鸞聖人は、この後、吉水の法然上人を訪ねられます。そして、法然上人を師として、専修念仏に帰依されました。

今日、私たちが日々学んで行く教えを示されることのきっかけとなった出来事です。

境内右手奥に「親鸞堂」（これも六角形のお堂）があります。



親鸞堂には、夢告を授かる御姿の「夢想之像」と、六角堂参籠の姿を自刻したとされる「草鞋の御影」の二体の親鸞聖人像が安置されています。

また、親鸞堂の正面には、参籠から叡山に戻られる御姿の親鸞聖人の銅像が立っています。



他にも境内には、「太子堂」「聖徳太子沐浴の池跡」「十六羅漢」「へそ石」などがあり、それぞれに逸話が語り継がれています。

今回の御遠忌では、この六角堂から庭儀（参道列）を出発し、瑞蓮寺まで練り歩き法要に花を添えます。

【お彼岸のお知らせ】

三月二十日（火・祝）

春の彼岸会法要を勤修します

午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話

住職

四時 お斎

【お稚児さん募集のお知らせ】

四月二十一日の御遠忌法要で六角堂から瑞蓮寺までの庭儀に参加していただけるお稚児さんを募集します。

参加費用は衣装代を含め一人七千円です。参加費を添えて申し込み下さい。一月末締切でご案内を差し上げたのですが、まだ先の話なので、予定が立たずお困りの方が多数おられるようです。既にご返答頂いている方には申し訳ありませんが、二月末まで締切りを延長いたします。

参加させたいが二月末でもまだ予定が立たないという方は、住職までご相談ください。お待ちしております。

【御遠忌法要のお知らせ】

四月二十一日（土）

慈雲山 瑞蓮寺

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

並びに

前任職七回忌法要

を勤修します。

午前九時半ごろより

六角堂から庭儀

午前十時半ごろ瑞蓮寺に帰着予定

午前十時 法要式次第説明

十一時 法要

午後零時半 法話

大谷大学名誉教授

鍵主 良敬 先生

一時半 お斎

法要に参加される方は、庭儀（稚児行列）をお迎えします。式次第の説明がありますので、**午前十時までに**瑞蓮寺へお集まり下さい。

【お磨きのお知らせ】

四月十五日（日）午前九時より

仏具のお磨きをいたします。

今回は、御遠忌法要のため、お彼岸前のお磨きは致しません。代わりに御遠忌法要前に行いますので、お間違いの無いよう。

【編集後記】

新しい年となりましたが如何お過ごしでしょうか？

新年最初の慈雲は「慈雲山 瑞蓮寺 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要並びに前任職七回忌法要」の特集からはじまります。一頁目には慈雲準備号に掲載しました前任職の書を再掲載いたしました。「二期一会とは予期せぬ時に良き師に出会う事であり…」まさに親鸞聖人と法然上人の事ではないでしょうか。七年も前に書かれたのに、今回の法要を予測したかのような書に驚きました。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。

<http://www.zuirrenji.net/>